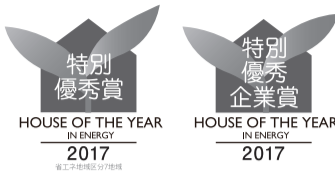


HOUSE OF THE YEAR 2017 ハイブリッド・エコ・ハートQ 『特別優秀賞』・『特別優秀企業賞』W受賞!!

平成29年度(2017)3月7日発表において、連続8期特別優秀賞(大賞含む)・優秀企業賞を受賞!

「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」は「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック」を継承した国土交通省の外郭団体である(一般財)地域開発センターが主催する住宅のエネルギー消費削減を目指した住宅性能に関する審査会で。



K邸 奥様 M邸 御主人 N邸 奥様 I邸 御主人 MY邸 御夫婦 岩前 篤 教授

生活実態、討論会参加協力ご家庭の建築年

◎N邸(H26・12) 在住年3年4ヶ月
◎M邸(H27・12) 在住年2年4ヶ月
◎K邸(H27・12) 在住年2年4ヶ月
◎I邸(H29・6) 在住年9ヶ月
◎MY邸(H29・12) 在住年5ヶ月

「高性能住宅の実態を一般の皆様様に、啓蒙するためには、住んでおられる方の、生の声を直接聞かせるのが一番です」と言う、岩前先生のアドバイスによるものでした。

住宅で最もお気に入りの所はどこですか?

N邸・奥様 「和室が良いですね、とても落ち着きます。お客様からも、人気がありますよ」
M邸・御主人 「吹き抜けのあるリビングと、それに繋がっている和室ですね、とても落ち着きますね」
K邸・奥様 「大きな窓と勾配天井です。開放感があり、伸び伸びとして、圧迫感がないんです」
I邸・御主人 「リビングからの眺めも良く、開放感があり居心地が良いですね」
MY邸・御主人 「圧迫感を感じさせない、広々としたリビングですね。大きな開口部から、杉林が見えますが、さすがらしい感じがします」

以前の住まいと比較してどこが違いますか?

N邸・奥様 「築40年の平屋建てに住んでいましたが、隙間風がひどく、結露もカビだらけでした。健康面での問題は無かったものの、夏も熱がこもり、蒸し暑くてエアコンも効きませんでした。現在は、夏も冬も快適な温度で、音も静かになり、安眠できる環境になったことがなによりです」
M邸・御主人 「鉄筋コンクリートの集合住宅で湿気が多く、カーテンや壁がカビだらけでした。健康面での問題は無かったものの、夏も熱がこもり、蒸し暑くてエアコンも効きませんでした。現在は、夏も冬も快適な温度で、音も静かになり、安眠できる環境になったことがなによりです」
K邸・奥様 「集合住宅に住んでいましたが冬になると、皆様と同じように結露が凄く大変でした。和室を中心に回遊式に部屋があることで、とても使い勝手が良く、窓を開けた途端に、隣接する公園の騒音に驚くくらい、我が家は静かです」
I邸・御主人 「二戸建て築35年の平屋建てに住んでいましたが、冬は室内でも、吐く息の白さが解るほどでした。窓だけがなく、壁にまで結露して、部屋にナメクジが上がつてきました。それに近隣の音が気になって、安眠も出来ませんでした。新居に引越して全

てが解決しました。特に妻は新居の完成と出産が同時期でしたから大変でしたが、入居してからは、アレルギー性鼻炎や目のかゆみからも開放され、とても喜んでます。子供を育てる環境として、この家は最高だと思っています」
MY邸・奥様 「鉄筋コンクリートの集合住宅に住んでいましたが、冬は結露とカビ、夏は西日が入り暑くて、大変でした。新居で一冬越してみても、結露は全くなくなり、手足の冷えも改善されました。季節毎に、どの様な生活環境に変化するのか、今はとても楽しみです」

第一部

HEAT20 高性能住宅

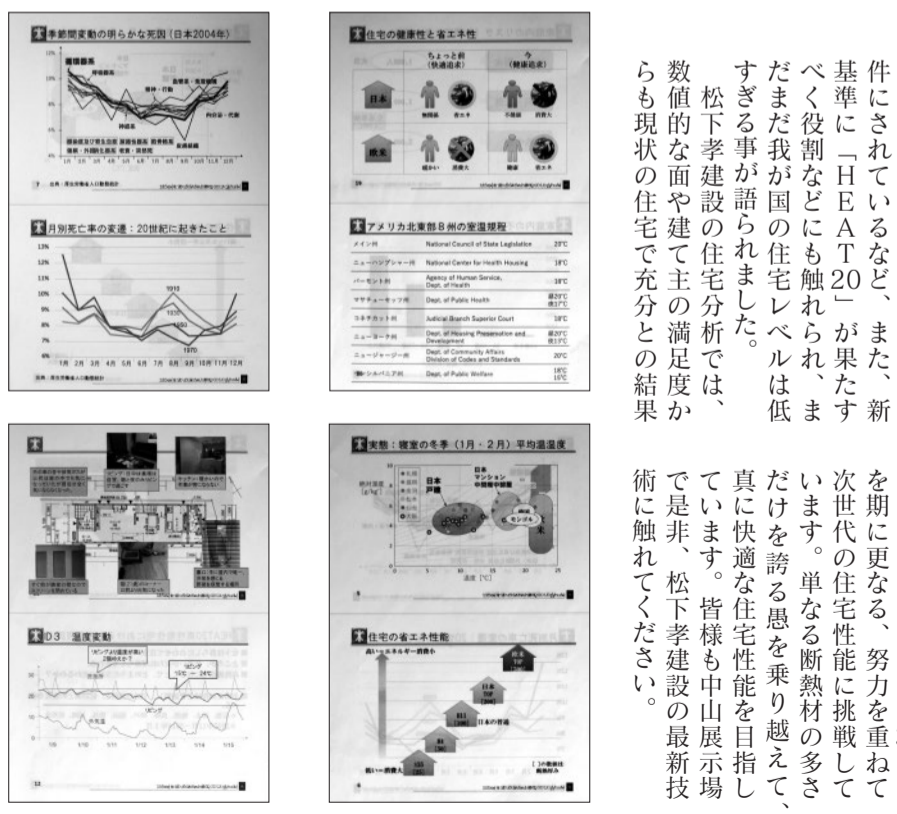
実態調査、協力者の生活体験。

株式会社 松下孝建設 創立35周年記念

賢い住まいづくりセミナー

講師：近畿大学建築学部 学部長 教授 岩前 篤 氏

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 関連賞8期連続受賞。



岩前教授の講演内容は 実態調査と健康の関連。

松下孝建設は、本年創業35周年を迎えます。また、3月7日には「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー・2017」で優秀賞・優秀企業賞等の関連賞8期連続受賞しました。創業35周年を記念し、近畿大学建築学部学部長・岩前篤教授を迎えて講演会を開催致しました。岩前教授を招聘致したのは岩前教授は松下孝建設が鹿児島県で唯一の賛助会員である「HEAT20」の主催参加

者で、賛助会員が建設した住宅の実態調査で、松下孝建設の建物調査され、第二部に参加の建て主様の住宅の調査を行って行かれたからです。「HEAT20」とは、欧米などでは、民間の技術開拓の目標とする、民間の関心を高めるため、国の制度・基準とは一線を画して「望ましい姿」を民間主導で提案する取り組みです。日本でも2009年・2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会(HEAT20)が始まり、岩前教授はNEB(ノン・エナジー・ペネフィット)住宅の省エネルギー以外の便益)研究の我が国を代表する研究者です。

松下孝建設の調査対象住宅の分析を通じて、松下孝建設の住宅性能のレベルを解説していただくために、建築学部・学部長という要職にあり、ご多忙な時間を割いていただき講演していただきました。

岩前教授の講演内容は、住宅に於ける、快適性を構成する最も重要な要件は、住宅の温熱環境で、温熱環境の改善によって建て主が受ける便益は病気の改善や予防に留まらず、危険性の回避や様々な分野に及び、EB(エナジー・ペネフィット)による地球環境の保全にも関連していること、更に今までは温熱環境だけが重要視される傾向にありましたが、住宅が長寿命を

デザインによる動きやすさ

松下孝建設の住宅は、デザイン性が良く、照明なども合理的に配置されていること、さらに合理的な動線と、吹き抜きの使い方の特徴があることなどを話されました。

住宅性能では、居室間の温度差の重要性、無暖房状態でも15℃以下にならない温熱環境が求められることが語られました。

欧米の例では、無暖房状態でも20℃以下にならないことが条件にされているなど、また、新基準に「HEAT20」が果たすべく役割などにも触れられ、まだまだ我が国の住宅レベルは低すぎる事が語られました。

松下孝建設の住宅分析では、数値的な面や建て主の満足度からも現状の住宅で充分との結果

G・2基準の住宅性能

「HEAT20」G・1

松下孝建設の鹿児島市中山展示場は2棟ともG・2基準で建てられている展示場です。岩前教授には、前回の調査時に、中山展示場をご案内致しましたが、松下孝建設の先進的な取り組みに感心していただくと共に、住宅性能が最も良く分かるこの寒い時期にエアコン一台で快適な性能を発揮する住宅を、多くの皆さんに体験して頂きたいという想いも話されていました。

松下孝建設は、創業35周年を期に更なる、努力を重ねて次世代の住宅性能に挑戦しています。単なる断熱材の多さだけを誇る愚を乗り越えて、真に快適な住宅性能を目指して是非、皆様も中山展示場に足を触ってください。

第一部

データから見る

健康な暮らしと健康な住まい。

が温度分布で示されました。